

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<https://uminoko.jp/>

教職員研修会を開催

【 所長 東 文 三 】



8月3日(水)琵琶湖博物館を会場にしてフローティングスクール主催の教職員研修会を開催しました。昨年度に引き続いての実施です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1泊2日の児童学習航海が1日の日帰り航海となり、びわ湖学習の機会が少なくなりました。また、「うみのこ」に乗船した経験が少ない先生が増えてきたこと、「湖の子」サポーターも乗船する機会が減ったことなどから研修会を開催しました。

各学校に募集したところ、「湖の子」サポーターも合わせると約40名の方が参加してくださいました。

開会式の後、約40分間「びわ湖の概要」について、琵琶湖博物館の方から講義をしていただきました。びわ湖の基礎的な知識や生き物のこと、環境のことを教えていただきました。

続いて2グループ(実習A、実習B)に分かれて、次のような実習をしました。いずれも、「うみのこ」に乗船中や事前、事後の学習で活用できる実験です。

【実習A】

○水のごれ回復実験

模擬実験を通して、びわ湖の水を一度汚してしまうと元に戻すためには何十年もかかることを気づかせる実験。

○びわ湖の水の透視度調査

びわ湖の北湖、南湖、40年前の水(絵の具による再現)、水道水のにごり具合を比べて、原因や富栄養化に対する県民の努力について考えたり調べたりするきっかけとする実験。

(乗船校の約95%が実施)

○びわ湖の深呼吸実験

模擬実験を通して、びわ湖の全層循環について理解し、びわ湖の環境について考えさせるきっかけとする実験。

【実習B】

○びわ湖のプランクトン観察

実際にプランクトンネットを使ってプランクトンを採取し、顕微鏡でプランクトンを観察して、びわ湖の生き物に興味を持ち、魚との関係、水のにごりなどについて考えさせるきっかけとする観察。(乗船校のほぼ100%が実施)



研修会を終えて参加した先生方は、「体験を通してびわ湖について理解が深まった。」「学習内容を事前に体験でき、見通しが持てて有意義だった。」「(この研修で)子どもへの声かけや指導が変わると感じた。」「授業の際の気をつける点、工夫を活かしたい。」などと答えてくださいました。

今後も、子どもたちを直接指導される先生方に、びわ湖のこと、びわ湖学習のこと、フローティングスクールのことをしっかり理解して充実した指導をしていただけるよう、取り組んでまいります。